

2010年度

科目名	ことばの科学B				
担当教員	溝口 健司				
配当	文 2・教育2・人間2			コード	53170
開期	後期	講時	金曜日3限	単位数	2
授業テーマ	言語の本質を探る。				
目的と概要	宇宙論および進化論の観点から言語の本質に迫る。言語は認識の反映であり、認識は宇宙におけるひとつの現象として根源的には物理法則に支配されている。空間が重力で歪むように、言語や認識は例えば注意力あるいは無意識の力によって歪む。また、宇宙誕生以来の組織化の結果として発生した生物が進化する過程のなかで、言語は情報を受け取り、状況を操作する道具として経済性にすみずみまで支配されている。この授業では、<物理的存在である物質宇宙>と<認識の産物である言語>にどのような関連あるいは連続性があるのかを探る。				
成績評価法	学期末の不定期試験(80%)、および質疑応答などにおける発言の質・量(20%)によって評価する。				
テキスト	使用しない。				
参考書	宇宙・エントロピー・組織化/H. Reeves/国文社 ユーザーイリュージョン 意識という幻想/T. N φ rretranders/紀伊國屋書店				
履修に当たっての注意・助言	「ことばの科学A」を履修していることが望ましい。				
講義計画					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 心身の自由はあるのか？生存に意識は必要か？ 2. 言語の本質とはなにか？ 3. 有縁性と恣意性：ソシユール批判 4. ゲシュタルト：無生物と生物の連続性 5. ゲシュタルトの構成と崩壊 6. ゲシュタルトの一般化 7. 組織化の構造：多層レベルの反応現象 8. 比喩の構造（1） 9. 比喩の構造（2） 10. 駄洒落の構造（1） 11. 駄洒落の構造（2） 12. 芸術の駄洒落性あるいは駄洒落の芸術性 13. 進化・生存と駄洒落：コピーとミスコピー 14. 反復の原理と構造 15. 総括 					